

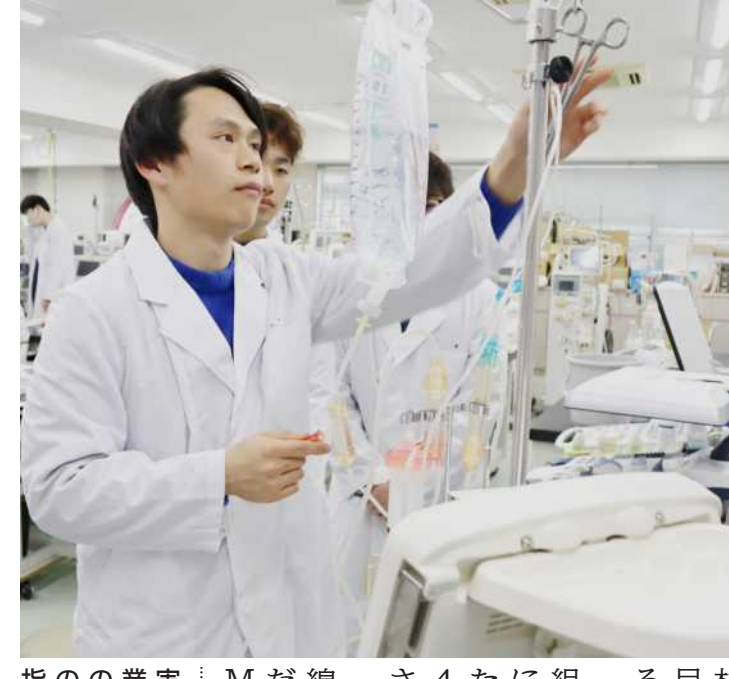
国内・国外の連携教育推進

学校法人 大阪滋慶学園

滋慶医療科学大学

「診療放射線学科」を来月開設

医療機器の高性能化とAI(人工知能)活用が進む現代医療では、診断と治療の双方を理解し、チーム医療をけん引できる医療エンジニアの存在が欠かせない。滋慶医療科学大学は、2026年4月に診療放射線学科を新設し、画像診断の専門家を育成する体制を整える。既存の臨床工学科との連携により、診断から治療までを一体的に理解する新たな医療人材の育成を目指す。



滋慶医療科学大学 大学として2021年 学は「実践力・人間力」を備えた医療・工学・AIに開学した。高度化・国際化を備えた医療を融合した教育を掲げる。医療機器に活用できる人材の育成を使命に掲げ、医療機器を扱う専門エンジニアの不足が、医療現場と産業界の連携を促進し、指摘されるなか、同大の双方で活躍できる人材の輩出を目指している。



高度な教育を行うため最新の放射線機器をとりそろえている。

世界と地域をつなぐ

大阪滋慶学園は「職業人教育を通じて社会に貢献する」を使命に掲げ、グローバル(国際)とローカル(国内)の両面でバランスの取れた教育を行う「グローバルカリキュラム」を目指している。米国、中国など海外の大学と連携、交流を進め、並行して国内教育も近代化・高度化し、教育レベルを向上させる。医療・健康の未来を変える新技術「ヘルステック」をテーマに、グローバルカリキュラムで国内外の人材育成に取り組む。

大阪滋慶学園は国内で試験を受けた。実際に現場に赴く研修が、海外から取り組み、専門学校、大学・大学院などを運営する。早くからグローバルに目を向け、1987年から米国への海外研修を始め、93年から中国研修も行って来た。両国で提携した大学・医療機関も数多く、今後さらにグローバルとローカルのバランスを取るために、米国4大学、中国6大学と連携を深めていく考えだ。



日本、中国、アジア地域の臨床工学を担うテクノロジストの交流の場「アジア臨床工学フォーラム」

海外研修は2020年以降の新型コロナ禍で中断された。実際に対策としてオンラインで医療・介護分野を中心とした職業人教育に力を入れた。海外から取り組み、専門学校、大学・大学院などを運営する。早くからグローバルに目を向け、1987年から米国への海外研修を始め、93年から中国研修も行って来た。両国で提携した大学・医療機関も数多く、今後さらにグローバルとローカルのバランスを取るために、米国4大学、中国6大学と連携を深めていく考えだ。

「グローバル高等職業教育」の挑戦

「新しいモノづく」中、臨床工学の未来を拓く。大阪滋慶学園は、これまでにも提携し、国際遠隔教育を拡大し、世界と自由な教育が可能になる。国内で海外の講義を受けるだけでなく、日本から海外に向けて講義を行い、相互に職業人教育を行うこともできる。大阪滋慶学園はこれまで提携実績のある米国、中国のほか、台湾、韓国、ベトナム、ミ

開発人材養成と新産業創造両立

滋慶中之島センターでは定期的にセミナーが開催されている。国際遠隔教育を拡大し、世界と自由な教育が可能になる。国内で海外の講義を受けるだけでなく、日本から海外に向けて講義を行い、相互に職業人教育を行うこともできる。大阪滋慶学園はこれまで提携実績のある米国、中国のほか、台湾、韓国、ベトナム、ミ

AI時代、高度医療機器扱うプロ養成

治療・診断両面から支える



滋慶医療科学大学は、医療・工学・AIを融合した教育を通じて、実践力・人間力・国際力を備えた医療エンジニアの育成を使命としています。日本の医療機器産業は欧米依存が続き、医療機器の不足が、国内の医療現場に課題です。本学は臨床工学士を育て、多職種が協働するチーム医療の時代に、倫理観と広い視野を持ち、国内外で活躍できる人材を輩出することが私たちの使命です。学生一人一人が新しい医療を切り開く「フューチャー」を創造し、社会に貢献して、未来を担ってほしいと願っています。

透視装置など生命維持に不可欠な医療機器を扱う専門職であり、診療放射線技師とは異なる領域の医療を担う。両者の連携により、患者の不安を取り除くコミュニケーションが求められる。AI時代の高度医療機器を扱うプロ養成を目指す。滋慶医療科学大学は、医療・工学・AIを融合した教育を通じて、実践力・人間力・国際力を備えた医療エンジニアの育成を使命としています。日本の医療機器産業は欧米依存が続き、医療機器の不足が、国内の医療現場に課題です。本学は臨床工学士を育て、多職種が協働するチーム医療の時代に、倫理観と広い視野を持ち、国内外で活躍できる人材を輩出することが私たちの使命です。学生一人一人が新しい医療を切り開く「フューチャー」を創造し、社会に貢献して、未来を担ってほしいと願っています。

滋慶医療科学大学学長 千原 國宏氏

《実学教育・人間教育実践の場》 令和7年度 卒業研究発表 日刊工業新聞社賞受賞演題

失語症と社会的行動障害を併発した一症例 ～言語訓練を通じた病識と行動改善の試み～

大阪医療技術学園専門学校 言語聴覚士学科 三村 優花さん 脳損傷に伴う社会的行動障害は医療現場で大きな課題となる。本研究は、失語症と行動障害を併発した70代男性の改善、行動面でも病識の獲得や不適切行動の減少、情動コントロールの向上が確認された。さらに画像所見から、扁桃体損傷が行動障害に関与する可能性も示唆された。言語訓練が行動改善にも寄与することを示した意義ある成果であり、臨床に新たな視点を提供する研究である。

膵癌に対するEpcAMを用いた光免疫療法の有用性

大阪ハイテクノロジー専門学校 バイオ再生医療学科 福智 佑真さん 日本人の死因1位であるがんの新たな治療法として光免疫療法が注目され、難治性膵臓癌への応用研究が進んでいる。光免疫療法は頭頸部がんにおいて保険適応となつているものの、その他の疾患ではいまだ研究段階である。本研究では、関西医科大学胆膵外科講義座にて膵臓がん高発現領域を標的としたEpcAMを標的とした光免疫療法の有効性を検証した。EpcAMを用いた創薬開発が期待される。

どこに逃げればいいのか、を知るために ～高齢者の避難意識と地域支援の関係性～

大阪保健福祉専門学校 介護福祉科 渡邊 夢那さん 明らかに、安全な避難実現に向けた地域支援のあり方を検討した。南海トラフ巨大地震が予測される中、高齢者は身体機能低下や孤立により災害弱者となりやすい。結果、①高齢者の避難意識と地域支援の関係性②高齢者の避難意識と地域支援の関係性③地域支援の重要性を示した。

NMES(神経筋電気刺激)とストレッチを併用した後のパフォーマンスに与える影響 ～メディカルトレーナーコース 介入校の選手に対して練習や試合前の前処置としての実施を目指して～

大阪医療福祉専門学校 理学療法士学科夜間部 神野 詩織さん 習を年間240回にわたり実施している。本研究は、筋機能の改善に用いられるNMES(神経筋電気刺激)がスポーツ現場でのパフォーマンスに与える影響を検証した。学生25人を対象に大腿四頭筋のストレッチングと動的ストレッチングと大腰筋へのNMESを併用した結果、筋力向上に寄与することが示唆された。

パルスオキシメーターにおけるラメ入りジェルネイルの影響

大阪医療看護専門学校 看護学科 宇良 彩花さん 若し女性を中心に普及するジェルネイルは医療現場でも遭遇頻度が高く、実験ではラメ入りジェルネイルが測定値に影響を及ぼすことが確認された。この結果を踏まえ、臨床現場での判断に役立つ知見として期待されている。



測定値に誤差を生じさせる可能性があることが確認された。

